

## テニス4大トーナメント観戦の旅 その6 全仏オープンテニストーナメント 2017 (17年6月)

原田義則 (3組)

暇に任せて1年に1-2回のペースでテニスの4大トーナメントの観戦に行っています。今回は4年振りに全仏オープンテニストーナメント(パリ開催)に家族と共に行ってきました。40年近く前になりますがパリは3年間住んでいた街で、娘が生まれた町でもあり、勝手を知っているのが気楽です。

「錦織圭の追っかけ」ではないものの、錦織が4大トーナメントで優勝する歴史的瞬間に立ち会えるのではないかとの期待の下、これまでは準決勝や決勝のチケットを入手して観戦に行きましたが、錦織がそこまで勝ち残ることはまれで、グランドスラムで生で見ることは出来ませんでした。そこで今回は作戦を変更し、4回戦と準々決勝に狙いを定めチケットを入手しました。その結果、幸運なことに、狙い通り2試合見ることに成功しました。

錦織は今大会は調子が悪く、3回戦までは苦戦して勝ち上がって来ましたが、4回戦もベルダスコ(スペイン、世界ランキング37位)相手に第1セットを落としましたが続く3セットを連取して勝利。しかし準々決勝では世界ランキング1位のマレー(英国)に対し第一セットを圧倒的に取ったものの、第2セット以降は審判から遅延行為でペナルティーを科せられたマレーが怒りを力に変え、3セットを連取して、錦織のベスト4入りはなりませんでしたが、しかし、会場は終始「アレー・ケイ」(頑張れ圭)の声援が圧倒的で、人気は錦織が圧勝でした。後ろの席にいたフランス人は試合後「錦織の試合は楽しめるね」と呟いていました。このほか、男子ではナダル(スペイン)、チリッチ(クロアチア)、女子ではプリスコバ(チェコ)などの世界のランキング上位の選手達の信じられないような精度と力強いプレーを間近で見て(私のプレーの参考にはなりません)今回も大いに興奮しました。

またワイン・エキスパートの資格を持つ娘の提案でシャンパン生産の中心地であるランスに行き有名シャンパン醸造所を見て回ったり、悠々自適の老後を送るパリ在住時のアパートの大家さん夫妻と旧交を温めたりしましたが、一方でパリの下町では車越しに数多くの物乞いをするシリア難民の姿や昼日中ブラブラとする黒人・アラブ人を多数見かけ、そのギャップの大きさに愕然とする風景もありました。

体力が落ち、今回の旅は大いに疲れましたが、そう遠くない将来またウィンブルドンか、全米テニストーナメント@ニューヨークに行きたいと考えています。

2017年6月14日 記

次ページ以降にスナップ写真を掲載

元プロテニスプレーヤー杉山愛さんと  
左から 筆者、娘、杉山愛さん、妻



優勝した R.ナダル選手 (スペイン)



A.マレー選手（英国、世界ランキング1位）と対戦する錦織圭選手

錦織圭と対戦する A.マレー選手

